

平成27年度 1年間の人権教育の取組〈大胡小学校〉

1 研究テーマ 互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供の育成
～学校・家庭・地域社会の連携を通して～

2 研究のねらい

互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供を育成するために、学校・家庭・地域社会の連携した取組が有効であることを実践を通して明らかにする。

3 研究の内容

(1) 家庭・地域社会との連携

12月の人権集中学習に合わせ、学校公開日を利用して、1校時に「人権集会」、5校時に「人権に関する授業」を計画し、保護者や地域に公開した。児童だけでなく、保護者にも感想を寄せていただき、学校だよりや学年だよりなどで紹介した。また、親子で人権標語を作成してもらい、親子で人権について話し合う機会とすることができた。

①人権集会の実施

人権集会は、1. 校長講話、2. 人権擁護委員による寸劇と紙芝居、3. 「いじめ防止運動」について児童会からの提案の内容で行った。人権擁護委員との連携も初めて行ったが、低学年の児童にも分かりやすい内容でよかった。事前に練習した「世界を幸せに」の歌も、簡単な振りを教えていただきながら、全校で楽しく歌うことができ、大変盛り上がった。



②授業公開

各学年で、以下のような内容で授業を公開した。

第1学年 学級活動「三つの話し方」

「ドラえもん」の登場人物、のび太（おどおど、はっきりしない）、しずかちゃん（優しい言い方、自分の言いたいことははっきり言う）ジャイアン（威張っている、こわい）の言い方のタイプに分け、場面を設定してロールプレイを行った。

日頃の言動を振り返ることで、言葉遣いによって人間関係が悪くなることを実感できた。3つのタイプでロールプレイをしたことで、しずかちゃんタイプでは、素直に受け答えができることが実感できた。

第2学年 道徳「いれて」（親切・思いやり）

はじめに、「友だちと一緒に遊びたいけれど仲間に入れないうち、どうしたらよいでしょう。」と問いかけ、どんな言葉をかけたり、どんな行動をしたりすればよいかをワークシートに書いた。そして、それを基に話し合い、どのように声掛けをすると効果的なのかを考えた。その後、グループでロールプレイを行い、その時の気持ちを発表し合い、最後に感想を書いて、振り返りを行った。

子どもたちにとって身近な内容であったため、様々な場面を想定して仲間に入る際の言葉や、仲間に入れてあげるときの言葉を考える活動となった。仲間に入る際のスキルを高められたとともに、仲間に入りたがっている友だちの気持ちを理解することができた。

第3学年 道徳「レーナ マリア」（障害のある人たち）

授業の最初に学年合同で構成的グループエンカウンター「アドジャン」を行った。保護者にも参加してもらうことにより、児童も保護者もお互いの言葉にしっかりと耳を傾け、楽しみながら会話をすることができた。

道徳では、障害者がかわいそうなのではなく、ただ「不便である」ということに気付き、どんな人でも努力をすれば、できることが増えることや、楽しく生活できることが分かった児童が多かった。

授業の最初に、グループエンカウンターを取り入れることによって、お互いの距離が縮まり、道徳の時間に発表が増えることにつながった。



第4学年 総合「ふれあいを広げよう（手話講習会）」（福祉教育）

「車いす体験」「ブラインドウォーク」に続く、3つめの体験として「手話講習会」を行った。学校公開日に合わせたことで、福祉や人権について親子で考えるきっかけづくりができた。また、総合的な学習の時間の学習計画を人権週間に合わせたため、子どもたちは、自然の流れの中で、人権について考えることができた。そして、体の不自由な方の気持ちやどのような行動を取ることが大切なのか、3つの活動を通して、理解が高まった。

第5学年 学級活動「上手に断る」

授業の初めに、「手押し相撲」「マイ・イメージ」を取り入れた。「手押し相撲」では、楽しく学習する雰囲気作りをするだけでなく、フィードバックをして、お互いによかったところやアドバイスなどを伝え合うようにした。「マイ・イメージ」では、自分の行動を振り返り、「積極的」「控え目」「のんき」「そっかしい」などの言葉カードの中で、自分をよく表している言葉のところへ行き、集まった友達と選んだ理由や感想を話し合った。



「上手に断る」は、友達に誘われたが断らなければならない場面を想定し、上手に断る言葉をグループで話し合った。事前に「タエル」「ゴウイン」「サワヤカ」の3タイプのロールプレイを見て、「サワヤカ」のように上手に断る言葉を考えるようにした。

自然に話し合える雰囲気作りができていたので、グループの中で意見を出し合い、うまくまとめることができた。

6学年 道徳「青い鳥」(いじめ)

いじめを苦に自殺未遂をした男子生徒に対し、主人公がどう向き合っていくかを中心に描いた映画を視聴し、感想を交流した。印象に残った場面を親子で鑑賞し、感想を共有できた。「いじめ」は特別な言動からだけではなく、何気ない言葉、態度で起こることを確認したことで、普段の自分の行動を振り返るきっかけになった児童が多かった。また、感想を持ち帰り、親子で話し合ってもらったことで、「いじめ」や「思いやり」などあらためて親子で語り合うことができた。

(2) 人間関係づくり

① あいさつ運動

児童会の提案で今年度のスローガンを「あいさつで 幸せ運ぶ 大胡小」とし、年間を通じて全校で、あいさつ運動に取り組んできた。玄関を入るとすぐに目につく場所にスローガンを掲示すると共に、あいさつのめあて「大きな声で」「目を見て」などを示すことによって、気持ちのよいあいさつの仕方も意識できるようにした。



② なかよしタイム

本校では、年度初めにたてわり班を作り、朝活動の時間に6年生が計画した遊び「なかよしタイム」を行っている。この班を運動会でも活用し、並び方や行進の仕方などを、高学年が低学年に教えられるよう工夫している。これにより、学年をこえたなかよしの関係ができています。



(3) 授業づくり

① 年計の見直し

人権教育と学校行事・各教科・道徳・特別活動等の関連を考え、年間指導計画を見直し、改善を行った。学校公開日に授業公開を行うときにも、活用することができた。

② 職員研修

ア 検査について

1学期に2・4・6年生では hyper-Q Uを、1・3・5年生では C&S を実施し、結果について学年で話し合い、日常の指導に生かすことができた。また、クラス作りにも役立った。3学期にも全校で C&S を実施し、人権教育について振り返る際の参考にする予定である。

イ 構成的グループエンカウンターについて

構成的グループエンカウンター「アドジャン」について、職員研修を行い、全校で朝活動や授業の導入等で取り入れてきた。定期的に新しいお題シートを作成し、継続して取り組んできたことで、自然に意見を言い合える雰囲気作り役に立っている。また、友達関係もよくなってきている。

さらに、授業参観で保護者にも参加してもらったこともできたので、今後も色々な場面で続けていきたい。

4 成果と課題

(1) 研究の成果

- 人権教育の全体計画・年間指導計画を見直す事で、本校の教育活動を人権教育を視点に整理することができた。
- 保護者・地域社会との連携を通じた人権教育を目指し、学校公開日を利用して、人権集会や授業を公開することができた。また、保護者と一緒にエンカウンターを行ったり、参観の感想をいただいたりしたことで、児童と保護者が人権について一緒に考えるよい機会となった。
- あいさつ運動に継続して取り組んできたことにより、教師や友達・地域の方に進んであいさつできる児童が増えた。

(2) 今後の課題

- 人権学習や授業の中では、人権について真剣に考え、意見を交流できても、日々の活動の中では消極的になってしまう児童も多い。さらに、常時活動に視点を当てた取り組みを見直し、継続していくことで、進んで人権について考え、互いを大切にして、生き生きと活動できる児童の育成を目指していきたい。また、人権教育を効果的に進めるために、家庭や地域社会とより連携して取り組むことが大切である。